

スト Host Family のしおり

言葉について

“英語が話せない”ということを余り重大に考えないようにしよう。

勿論、話せないよりは、話せる方が便利である。時間があれば、簡単な挨拶等を勉強しておくのもいい。お知り合いに語学の得意な方がいれば、ホームパーティに招んであげるのも良い考え。

また、辞書を片手にやり取りするのもほほえましいもので、相手の言葉を教えてもらったり、逆に日本語を教えてあげることも、良いふれあいとなる。

アンバサダーとの文通

引受けアンバサダーの住所（またはE-mail アドレス）と氏名が知らされたら、やり取りを開始し、家族の写真などを紹介すると、来日を心待ちにするようになる。気候なども書き添えるのも親切。

受け入れ準備

部 屋 狭くても構いませんから個室を用意する。

物入れ 引出しを一段とか、洋服ダンスの一部など、物を入れる場所を用意。ハンガそれを掛ける場所も必要。

トイレット 洋式が理想的だが、和式でも勿論構わない。ただ、ひざの悪いお年を召したアンバサダーだった場合は、つらいものがあるかもしれないので、あらかじめホスト側EDに知らせて、了解を取っておくと良い。

入浴 入浴の仕方は日本独特である。浴槽内で石鹸を使ったり、お湯を抜いてしまったりしないように、説明をする。

名前 外国人には日本の名前は呼びにくく、また覚えにくい。家族の名前を書き出した表を作ってあげるとか、**愛称で呼んでもらうような工夫をする。**

家族の日程表（起床、食事、就寝など）を貼り出してあげると、アンバサダーは、その都度見ることができ、ホストファミリーの生活パターンに合わせやすくなる。

アンバサダーの自由時間も大切にしてください。1人でも楽しめるように、英字新聞、雑誌、ラジカセなども用意してあげると喜ばれる。

第2週目のホストが分かれば、連絡を取り合っておくと良い。

対面

ホストの皆様には、所定の会場に集まっておいただき、アンバサダーとの対面の後、一緒に帰宅していただく。

長い旅に疲れ、見知らぬ国での生活に多少の不安を抱いている彼らにとって、自分のホストファミリーが来ていないというのは心細いもの。

時刻に遅れることのないように、又、どうしても都合のつかない場合は、必ずEDか委員会の方へ連絡して、相談するようお願いする。

家庭到着後

お部屋に落ち着かれた後は、トイレ、台所などを案内し、簡単に、これからのスケジュールを話し合う。**念のために住所と電話番号を渡しておく。**

時差の疲れを取るには、しばらく時間がかかるので、**スケジュールは無理のない様に組む。**

日常生活の留意点

外国からのお客様ということで、過度に神経を使ったり、もてなしたりする人がいるが、アンバサダーも、お客様扱いを期待しているのではないので、家族の一員として受け入れるという意識で接すること。

観光旅行ではないから、毎日あちこちへお連れしなければいけないということではない。普段の生活をそのまま見せてあげることが重要。

むしろアンバサダーの仕事や趣味などを知って、興味のある所、例えば、教師の方なら、近くの学校を訪問するなどの、**希望を生かした手作りのプランが喜ばれる。**

趣味嗜好などを知っておく

喫煙者かどうか、何かのアレルギーがないか、宗教上食べられないものはないかなど、前もってやり取りの中で聞いておくが良い。

食事に日本料理を用意することは、日本文化を理解していただくのに必要なことだが、テーブルの上すべてを刺身、煮物、納豆など日本にしかないものばかりで、最初から埋めるのも考え物。何か一品、彼らの食べ慣れたものを食卓に乗せるようにしよう。

思想・宗教などに干渉しない

その国の民族の歴史、環境によって、人それぞれ異なる思想、宗教を持っていることは極めて自然なことであり、これがお茶の間で話題になった場合、相手の立場を尊重し、聞き上手になるという気配りをしてあげよう。

もてなしのアイデア

食卓や応接テーブルなど、人の集まる所に辞書を置いておくとう便利。

英語で書かれた日本の童話や民話、日本文化の写真集なども喜ばれる。地図を用意しておき、行ったところにマークしていくと、訪問地への親近感や現実感が湧いてくる。

時には地図を渡して、彼らだけの冒険旅行（例えば近所の散歩など）に送り出すのも良い考え。

近所の商店街の散歩

こじんまりしたお店が並んでいるのを見て、お祭りみたいだと喜ぶアンバサダーは少なくない。スーパーマーケットに並ぶ食料品を説明してあげよう。

お稽古事の見学

お茶、生け花、琴、三味線、民謡、剣道、柔道などは勿論のこと、英会話、コーラス、ダンス等のレッスンなどに連れて行くのも良い。たくさんのお友達に紹介するチャンスである。

学校訪問

あらかじめ連絡を取った上でお連れする。生徒達にも良い経験になることだろう。

お料理の講習会

お台所へ一緒に入っていただいて、腕前をお見せしよう。彼らに何か作ってもらうのも一案。

永いお付き合いを

帰りにお土産を持たせてあげるのも結構だが、余り高価なものを差し上げるのも考え物。滞在中に使ったお箸とか、湯呑茶碗程度で良いのではないだろうか。せっかくお友達になったのだから、肩肘張らない家族ぐるみの、未永いお付き合いをしていくようにしよう。定期的に近況を知らせあうとか、少なくともクリスマスカードぐらい送ってあげたいもの。

世界のどこかに、自分たち家族みんなで親戚付き合いができる人達がいるということは、本当に素晴らしいことだと思いませんか。友情の芽生えを大切にしましょう。

注 意

アンバサダーの急病などに備えて、英語の通じる病院を調べておこう。